

平成28年度 自己評価実践報告書

福島県立福島東高等学校長

1 自己評価の概要

(1) 『学校経営・運営ビジョン』に基づく自己評価の概要と改善点

「平成28年度学校の自己評価等の進め方について」に基づいて、『ビジョン』の作成及び評価を実施した。平成28年度の主な改善点は以下のとおりである。

- ①『ビジョン』の重点目標は、校長の経営方針に基づく文言に加えて、各部・学年・教科の努力目標のうち、全教職員がその意義を共有し、チームを超えて学校全体で実現に取り組みたい事項を掲げた。
- ②『ビジョン』においては、「数値目標」ではなく「指標」を掲げた。
- ③『ビジョン』に関する自己評価のための参考資料を得るためにアンケート調査を実施した。実施に当たっては、質問項目を精選した。
- ④各部・学年・教科の年度末評価（反省）の実施時期を早め、アンケート結果と併せての総括評価を第3回学校評議員会に提出できるようにした。これにより、学校評議員からの評価を踏まえて、次年度の計画策定をする時間が生まれた。
- ⑤全体として、学校評議員制度、人事評価制度等と学校の自己評価の体系を有機的に結びつけることができた。

(2) 校内組織体制について

校務運営委員会を学校評価委員会に位置づけた。

(3) アンケート調査

①調査の概要

対象	配布日	〆切日	回答率	内容
生徒	12月1日(木)	12月9日(金)	93.9%	質問は10項目に厳選し、評価者間の差や3年間の推移も分析対象とした。自由記述も設けている。
保護者	12月1日(木)	12月9日(金)	91.7%	
教職員	12月5日(月)	12月9日(金)	83.3%	

②評価の基準

「そう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「全く思わない」「分からない」の5段階評価とした。

2 広報の概要

- (1) 『ビジョン』、アンケート調査結果、年度末総括評価(学校評議員による評価を含む)については、学校のホームページで公表する。
- (2) アンケート調査結果については、次年度PTA総会等でも配布する。
- (3) 学校の教育活動全般については、ホームページの記事の更新、各種通信(『東高通信』(教務部)、ほけんだより、東高図書だより、生徒会新聞、東高新聞(新聞委員会)、生徒会誌『まほろば』、図書館報、PTA広報紙・新聞)等で、保護者等への広報に努めている。

3 『ビジョン』の総括評価(目標の達成状況)

(1) 重点①「学びの充実」

学校全体として、授業を大切にする姿勢が確立している。特に3年生に対する教職員全員体制は素晴らしい。熱心な教員集団により質の高い授業が行われ、徹底的な授業交換等により自習時間が非常に少ない。

大学進学プロジェクトは計画通り実施され、進路指導部は「進路情報センター」として機能した。大学合格者については、国公立推薦・A0合格者は18名(東北大学3名を含む)であった。数学科の試問のあるA0・推薦入試で合格者を出すことができた。

国語科は科内の情報共有を計画的に行って成果を出し、英語科は外部資格試験受験者を増加させた。

家庭学習時間には課題があり、目標は「生徒の90%が2時間以上」であるが、塾での学習時間を合わせても、達成できているのは30～35%程度である。

(2) 重点②「体育文化活動の充実」

ほぼすべての生徒が部活動を継続し文武両道を実践している。弓道部と美術部が全国大会・全国高文祭に出場し、多数の部・委員会が東北大会に進出した。献身的な部活動指導により、教員の勤務時間は長い。

(3) 重点③「キャリア教育の充実」

今年度初めて「キャリア教育」を『ビジョン』に掲げた。

授業に加えて、地域社会見学、未来の知事選等、行政、地域企業等とタイアップしての優れた取り組みが行われているが、総合的なコミュニケーション力と生活力の育成については、学校全体で改善の余地がある。

保護者アンケートの自由記述に「昨年までの学校経営・運営ビジョンには健康教育やキャリア教育が前面に出されていなかったように思います。生徒の学力向上の後ろを支えていくのに心や体の配慮が必要だと感じます。今年度明確に上げていただき安心しました。」というコメントが1件あった。『ビジョン』や学校運営の意図をよく汲んでいただいております大変嬉しい感想である。クラス単位の「性の講習会」等、効果的な取り組みも多い学校である。

新体力テストA級取得者は、運動部加入率の高い男子(加入率85.7%)で6.3%伸びた。(女子は運動部加入率50.1%で伸びは2.1%)運動部に加入している生徒が多いことから、本校生の体力は1年生から2年生にかけて大幅に向上している。今後は、運動の苦手な生徒、文化部に所属している生徒に対する具体的な手立てを考えたい。

本年、1年生の歯科治療率100%を指標のひとつとした。その理由は、平成27年度、「う歯有病率」は79%(県北ワースト4位)で、未治療のう歯や歯肉炎などで治療必要な生徒は465名もいたが、受診結果報告があったのは、わずか77名16%であったからである。今年度、1年生の歯科治療に、厚生部はもとより学年と部活動顧問からの働きかけを強化した。

※H28 1 学年歯科治療通知者145名 治療済み90名 62% 2月24日現在)

図書貸し出し数は、学年・国語科等の取り組みにもかかわらず、2000冊に至らなかった。これについても具体的な対策を検討したい。

(4) 重点④「情報発信・共有、施設の活用」

10月に行われた全教員による「東高を考える会」において中高の接続と学校不適應等について意見交換が行われ、次いで実施した「新テスト情報共有会」は新テストに対する理解を深める良い機会となった。

域内の中学生に対しては、東高見学会や高校説明会で「東高の教育」をアピールし、平成29年度のⅡ期選抜志願者数は1.40倍(平成28年度最終倍率1.12倍)に上昇した。ホームページによる情報提供量は大幅に向上したが、アクセス数は8.5万件にとどまった。台風等の接近に伴う臨時休校等の連絡やインフルエンザによる学級閉鎖等については、緊急連絡メールが適切に活用された。

施設については、北校舎大規模改修が終了し、フル稼働できるようになり、防砂ネット設置、体育館の雨漏り補修等が実施された。新年度、AEDを2台増やし計3台にする予定である。

(5) その他

2学年の化学の単位数が進学校の全国的な状況からみても薄いところから、2学年理系の芸術科目1単位を削減して、化学基礎・化学を4単位とした。平成29年度2学年から適用する。本校独自の45分授業について検討を重ねたが、平成30年度について

は現行のままとした。高大接続改革にそなえてソフト面の一層の充実を図る。

教職員の学校評価アンケート回答率が、保護者・生徒より低いことは、大変恥ずかしいことである。

(6) 総括

計画に則った教育活動を実施することができた。教員は長時間生徒と向き合い、学習活動・部活動・生徒会活動等の各方面で成果を出している。

「子どもを東高に入学させてよかったと思う」とかという問いに対する保護者の回答は、「そう思う62.4%」＋「ややそう思う28.0%」＝90.4%であり、満足感を持っている。しかしながら、入学してよかったかという問いに「そう思う」と答えた生徒は、平成26年度の51.0%から今年度は37.8%へと確実に減少している。また、「文武両道」というモットーが素晴らしいと思っている生徒も、平成26年度の50.1%から今年度は39.1%と10ポイント減少している。本校の特徴・強みを一層伸長させつつ、その意義を丁寧に生徒に伝え、文武を両立させて勉学の時間が確保できるよう、バランスの良い学校運営ときめ細かな生徒指導を行ってゆく。

不登校・長欠、学校不適応、学業・進路の悩みでカウンセリングを受ける生徒は多い。(いじめ又は交友関係での相談はほとんどない。) 学校に適應できない生徒の指導について明確な方針に基づく具体的な改善策を講じる。

特に、文武の両面において学校をリードする男子生徒が多い一方で、余裕が全くない女子生徒も見られる。これらの生徒については、一層きめ細かに指導する必要がある。母親の言動が女子生徒に大きな動揺を与えることも見られるところから、家庭との連携を深め、家庭教育の在り方等に関する講話等を導入してゆく。スクールカウンセラーからは、グループエンカウターの導入を勧められた。

4 学校評議員による評価

(1) 肯定的な評価

[学校経営・運営ビジョン]

- 世の中の価値観が多様化している中、キャリア教育の充実を掲げるなど、時代に相応しいビジョンである。指標を定めることで状況の実情が浮き彫りになり、校長はじめ先生方の組織的役割・責任が明確に哉、積極的な活動が図られている。
- 学校と生徒を取り巻く環境は大きく変わり、先生方は本当に大変である。そのような中に置いても、ビジョンのもと東高の未来像、生徒の将来像に対して真摯に取り組まれている校長はじめ先生方の素晴らしい姿勢にはいつも感銘を受ける。
- 重点を4項目掲げ、数値目標から指標に改善するなど適切と評価できる。数値化した指標はわかりやすい。
- 学校の課題を発見しようとする姿勢がみられる。
- 明確なビジョンと校長のメッセージがよく校内に伝わっていると感じる。
- 授業は勿論、部活動やキャリア教育まで行き届いて活動がなされている。
- 校内は非常にオープンな印象を受ける。
- 東高の生徒は、心身ともに健やかそうに見える。先生方の一丸となった指導の賜物だと思う。
- (説明を聞く限り) ついてこれない生徒へのフォローやいじめ対策において、初段階での生徒への迅速・丁寧な対応などの取り組みを確認でき、生徒・保護者が安心して任せることができる高校だと思う。
- 東高に行きたいという中学生が今年大幅に増えたのも、目標に向かってビジョンを展開しているからだと思う。
- 地域との接点ということで、ボランティア清掃の復活は良いことである。

[自己評価]

- 評価活動により、改善・前進している。生徒・保護者・教員の評価に違う傾向はあ

るが、目指すところは共有されている。

[情報公開]

- 情報発信・公開とも充分である。学習や部活動の結果のみならず、生徒の感想や心情も有り学校生活の雰囲気が知ることができる。
- アンケート結果のフィードバックや外部との比較の中で、それらを生かし、方向性を常に見直されていると感じた。

(2) 改善を要する点

[学校経営・運営ビジョン]

- △改善に大切なのは計画と実行である。少しでもマイナス評価が改善されるよう期待している。
- △生徒と保護者の満足度を上げようとする先生方の負担は増す。難しい問題だとは思いますが、ビジョンを通して改善され良い方向に行くよう願う。
- △福島大学・福島医大との連携や東高OBの現役大学生・社会人による勉強会・講演会等、東高生の進学意欲が啓発されるようなことを開催する。
- △「いじめ防止の取組」について生徒・保護者・教員の間で評価に差があるのが気になる。
- △「教職員の仕事の見直しと改善」に関してはこれからであろう。
- △学校方針の中にあるが、情報モラルの教育は是非やってほしい。高校生のうちから情報モラルを身につけてほしい。
- △ビジョンの中に、「文武両道」という東高の特色を通じ「自分の能力・個性を伸ばす」「自分に挑戦する」等の内容を盛り込んではいかがか？
- △先生方の勤務時間が長い。

[自己評価]

- △同窓会会報を通して卒業生などに、東高の生徒に期待すること等のアンケートを実施してみてもどうか。
- △保護者の満足度・充実度の向上に対し、生徒は少し減少傾向にあるとのことだが、その要因や背景が何か知りたい。
- △教員のアンケート調査の回答率が生徒や保護者より低いので自ら率先して回答する姿勢を見せてほしい。90%以上であってほしい。残念。(3名)
- △地域の人々へのアンケートは行われているのだろうか。(A：行っていない。)
- △アンケート調査では、なぜそう思うか等のコメントもあれば、改善もしやすいのではないか。

[情報公開]

- △「入学して良かった」「文武両道が素晴らしい」の項目に関して生徒アンケートのポイントがポイントが減少していることが気になる。入学後に意義を伝えることも大切であるが、入学後のギャップに戸惑わないよう、中学生に向けた広報活動も必要である。